

# 新年のご挨拶



一般社団法人日本エレベーター協会  
会長 多田 弘之

明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は当協会の活動に格別のご厚情を賜り、心より御礼を申し上げます。本年もより一層のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、2019年は「今年の一文字」の「令」が表すように、新天皇の即位に伴い新たな元号「令和」が始まり、日本全体が祝賀ムードに包まれた年となりました。その一方で台風の大型化による大きな被害が9月に千葉県を中心とした関東地方、10月には再び関東地方そして甲信地方、東北地方に大きな被害をもたらし、治水対策の重要性が改めて認識させられた一年でもありました。日本経済は消費税増税による影響があるなかで、米中貿易交渉や日韓関係が不透明ながらも日経平均株価がこの5年間での最高値を記録するなど、安定した推移の一年となりました。2020年においては、東京オリンピック・パラリンピックの開催に加え、大阪で2025年国際博覧会（万博）が決定、2027年横浜で国際園芸博覧会（花博）の招致が進む等、インバウンド関連での大きな経済効果が期待されるのではないかと思います。

エレベーター業界においては、新聞等でも取り上げられたエレベーター2020年問題に向けた対応が進むなか、昇降機が担う社会的使命は、その重要性が年々増すとともに変化しており、地震や台風等の度重なる災害に対応するための昇降機の技術革新や法令改正が急務です。また、バリアフリーや安心、安全の観点からも、お年寄りから子供までより安心してご利用いただけるよう、安全、安心の取組みに対する期待と責務は益々重くなっております。

2020年は「昇降機の安全、安心」の一層の推進に向けて取り組むとともに、従来の活動に加え、政府の労働力確保への動きに呼応した、業界の技術確保への取組みも継続してまいります。また、エレベーター、エスカレーターへの安全利用に向けた周知活動にも地方公共団体、鉄道各社様と協力して推進してまいります。

令和最初の年頭に当たり、本年が皆様にとりまして輝かしい年となりますことを心からお祈り申し上げます。